

あめのなか、みのむしがはなしています。

「かわいいな、あのこ」

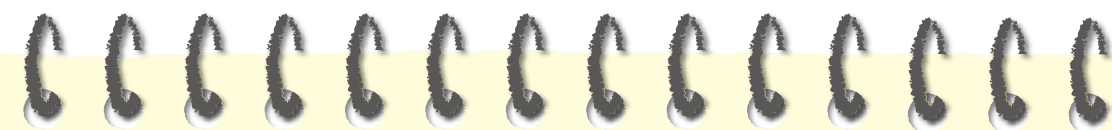
「はんまや、ええな」

「こっちむけ」

「やば、かわいくない」

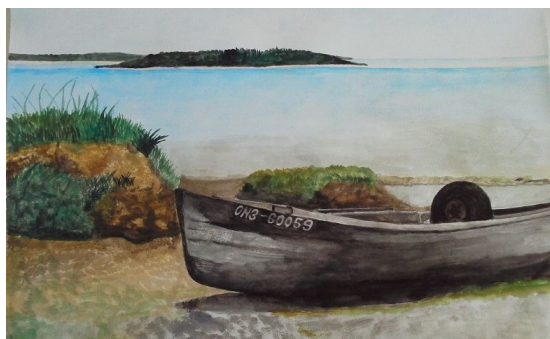
(利用者代表：白子健一)

羊毛フェルトを入れた茶こしを手で振ったり、スイッチを使ってぐるぐると回して丸めました。丸くなったフェルトをデグスでつなぎ、目をボンドでつけました。この作業には7名の利用者様がかわり、それぞれの方ができることを行いました。できあがった「みのむし」をOTが木につらし、それを利用者様がデジタルカメラで撮影しました。(担当 OT：北野真奈美、杉原史高、渡辺雅俊)



今月の作品

本コーナーでは、表紙にご応募いただいた作品の中から毎月1点をご紹介します。



砂川泰彦「サバニ」

宮古島（沖縄県）では、幅が狭く縦長の形状をした、絵のような舟を「サバニ」と呼びます。沖縄を象徴する伝統的な舟ですが、今では海神祭という年中行事の舟漕ぎ競争でしか見かけなくなりました。

また、サバニと言えば「久松五勇士」の逸話が有名です。日露戦争たけなわの明治38年5月25日、ロシアのバルチック艦隊が宮古島西北洋上を通過したことを知らせるため、久松の漁師5名はサバニに乗り込み、通信施設のある石垣島に向かいました。距離にして170km、5月27日の早朝に目的地に到着、その使命を果たしたそうです。

宮古島市平良久松の海辺でサバニを見かけたとき、心地良い懐かしさに包まれると同時に、漠然ではありますが困難に立ち向かう勇気が湧き上がってきました。

そのような思いを胸に筆をとり、一気に描き上げました。